

2008 年度

科目名 古文書学実習Ⅰ	対象学科・学年 文学部文財2回生	担当者 山中 浩之
授業テーマ 古文書の読解と整理		
授業の概要と目標 歴史は1回しか起こらない。ほとんどは人々の記憶の中か、忘却のかたへと消えていく。残される史料はごくわずかある。だから史料はいかなるものも貴重である。しかし史料はそのままでは紙片でしかない。それを1片1片読み解き、それらが相互につながりを持ち出したとき、紙片は意味ある史料として立ち現れてくる。そうして人々がそのとき、その場でどう生きようとしていたかが見えてくるとき、歴史が古文書を通して浮上してきたといえるだろう。 古文書の読解と、古文書を扱い整理する技法の修得を目指す。 なお古文書実習の受講者は同時に古文書学を履修中である者を原則とする。		
評価方法 平常点を重視し、試験・レポートを加えて総合的に評価		
テキスト くずし字解読辞典	著者	出版社 東京堂
参考書 『概説古文書学 近世篇』 『史料の整理と管理』 『古文書調査ハンドブック』	著者	出版社 吉川弘文館 岩波書店 吉川弘文館
授業スケジュール・内容 Ⅰ. 古文書の読解—古文書を通して人の一生を読む— ① 誕生 ② 成長儀礼 ③ 学びとあそび ④ 芸の修得 ⑤ 結婚と離婚 ⑥ 出産 ⑦ 家業の営み ⑧ 病気 ⑨ 臨終と死 Ⅱ. 古文書の整理 ① 古文書整理の原則 ② 古文書整理の方法 ③ 目録作成 ☆夏休み中に現地において古文書調査・整理をおこなう。大学博物館内あるいは羽曳野市内の旧庄屋家、を予定		